④再処理施設（気体廃棄物）

*1 日本原子力研究開発機構 東海研究開発センター 核燃料サイクル工学研究所 (再処理施設)			クリプトン [^{85}Ｋｒ] （Ｂｑ）	ヨ ウ 素 [^{129}Ｉ] （Ｂｑ）
	再処理施設合計		1.4×10^{15}	6.8×10^{7}
	年 間 放 出 管 理 目 標 値		8.9×10^{16}	1.7×10^{9}
*2 日本原燃（株） 再処理事業所 (再処理施設)		放射性 アルゴン （Ｂｑ） *4	クリプトン [^{85}Ｋｒ] （Ｂｑ）	ヨ ウ 素 [^{129}Ｉ] （Ｂｑ）
	再処理施設合計	N.D.	1.7×10^{16}	2.2×10^{8}
	年 間 放 出 管 理 目 標 値	－	3.3×10^{17}	1.1×10^{10}

*1 日本原子力研究開発機構 東海研究開発センター 核燃料サイクル工学研究所 (再処理施設)		全粒子状物質		
		［ 全α ］ （Ｂｑ）		［ 全βγ］ （Ｂｑ）
	再処理施設合計	N.D.		N.D.
	年 間 放 出 管 理 目 標 値	*3 2.2×10^{-8}		*3 1.1×10^{-4}
*2 日本原燃（株） 再処理事業所 (再処理施設)		その他核種 (α線を放出する核種) （Ｂｑ）	左記内訳(核種別) プルトニウム ［Ｐｕ(α)］ （Ｂｑ） *4	その他核種 (α線を放出しない核種) （Ｂｑ）
	再処理施設合計	N.D.	N.D.	N.D.
	年 間 放 出 管 理 目 標 値	3.3×10^{8}	－	9.4×10^{10}

注： 気体廃棄物の放出放射能（Bq）は、排気中の放射性物質の濃度（Bq／cm^3）に排気量を乗じて求めている。
なお、放出放射能濃度が検出限界濃度未満の場合は N.D. と表示した。
検出限界濃度は次のとおり。

放射性アルゴン	：1×10^{-4}	(Bq／cm^3) 以下	(*2)
^{85}Ｋｒ	：2.4×10^{-3}	(Bq／cm^3) 以下	(*1)
	：2×10^{-2}	(Bq／cm^3) 以下	(*2)
^{129}Ｉ	：3.7×10^{-8}	(Bq／cm^3) 以下	(*1)
	：4×10^{-8}	(Bq／cm^3) 以下	(*2)
^{131}Ｉ	：3.7×10^{-8}	(Bq／cm^3) 以下	(*1)
^{3}Ｈ	：3.7×10^{-5}	(Bq／cm^3) 以下	(*1)
^{14}Ｃ	：4.0×10^{-5}	(Bq／cm^3) 以下	(*1)
全粒子状物質（全α）	：1.5×10^{-10}	(Bq／cm^3) 以下	
全粒子状物質（全βγ）	：1.5×10^{-9}	(Bq／cm^3) 以下	
その他核種（α線を放出する核種）	：4×10^{-10}	(Bq／cm^3) 以下	（全αに対する値で代表した）
Ｐｕ(α)	：4×10^{-10}	(Bq／cm^3) 以下	
その他核種（α線を放出しない核種）	：4×10^{-9}	(Bq／cm^3) 以下	（全β(γ)に対する値で代表した）
^{90}Ｓｒ-^{90}Ｙ	：4×10^{-10}	(Bq／cm^3) 以下	
^{106}Ｒｕ-^{106}Ｒｈ	：4×10^{-9}	(Bq／cm^3) 以下	
^{137}Ｃｓ-^{137m}Ｂａ	：4×10^{-9}	(Bq／cm^3) 以下	

④再処理施設（気体廃棄物）（続き）

ヨ ウ 素 [^{131}I] （Ｂｑ）	トリチウム [^{3}H] （Ｂｑ）	炭　素 [^{14}C] （Ｂｑ）
N.D.	1.4×10^{12}	9.0×10^{10}
1.6×10^{10}	5.6×10^{14}	5.1×10^{12}
ヨ ウ 素 [^{131}I] （Ｂｑ）　*4	トリチウム [^{3}H] （Ｂｑ）	炭　素 [^{14}C] （Ｂｑ）　*4
3.2×10^{5}	6.0×10^{12}	9.1×10^{11}
1.7×10^{10}	1.9×10^{15}	5.2×10^{13}

左記内訳（核種別）		
ストロンチウム －イットリウム [^{90}Ｓｒ-^{90}Ｙ] （Ｂｑ）　*4	ルテニウム －ロジウム [^{106}Ｒｕ-^{106}Ｒｈ] （Ｂｑ）　*4	セシウム －バリウム [^{137}Ｃｓ-^{137m}Ｂａ] （Ｂｑ）　*4
N.D.	N.D.	N.D.
－		

*3　３月間平均の濃度管理目標値(Bq/cm^3)

*4　アクティブ試験開始（2006年3月31日）により測定対象核種に追加された。